

全国学力学習状況調査6年生分析結果

かだい 課題については、とりくみ かいぜん 取組を改善していきます。

【成果】

こくご か 国語科では、もくてき いと おう かん 感じたことや かんが 考えたことなどから書くことを選び、えら あつ 集めた材料をぶんるい かんけいづ 分類したり関係付けたりして、つた 伝えたいことをめいかく せいたう せんたく 明確にする正答を選択できていた。

さんすうか けいさん かん な た せいしつ かつよう けいさん しかた こうさつ もと かた こた しき ことば 算数科では、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかの問で、350×16 の乗数「16」が、350×2 の乗数「2」の8倍であることにちやくもく 着目して、350×16 の求め方と積イを記述できていた。

（成果の要因）

こくご か 国語科では、まいとし ねんせい ねんせい ちいさ 地域のCS おうえん隊の方に感謝の意を伝える感想を書いている。あいて いしき とりくみ けいぞく おこな つた めいかく せいたう せんたく 相手を意識した取組を継続して行うことで、伝えたいことを明確にしている正答を選択することができるようになっている。

さんすうか さくねん だい がくねん ないよう せいたうりつ たか こんねんど だい がくねん せいたうりつ たか 算数科では、昨年でも第2学年の内容の正答率が高く、今年度も第3学年の正答率が高い。これは、ていがくねん ぐたいぶつ つか しかくか ていねい とりくみ せいか あらわ 低学年での具体物を使ったり、視覚化したりする丁寧な取組の成果が表れている。

【児童質問紙から】

じどうしつもんし 児童質問紙（27）5年生までに受けた授業で、ICT機器をどの程度しようしたかの問いに、58.8%のじどう まいにち こた ぜんこく ぼいんと うわまわ 児童が「ほぼ毎日」と答え、全国25.3%を 33.5ポイントも上回っている。

（成果の要因）

じゅぎょう かつよう たぶれっと たいよ ねんめ さくねんど たぶれっとたんまつ かにてい 授業での活用はタブレットを貸与してから4年目となっているが、昨年度からタブレット端末の家庭への持ち帰りを1年生～6年生まで、ねんせい ねんせい ねんかんとお おこな がっきゅうへいさとう ばあい おんらいんじゅぎょう 年間通して行っている。学級閉鎖等があった場合もオンライン授業をじっし だれひとりと のこ まな と きょういく すず もでる しゅうがくりよう しゃかい 実施し、誰一人取り残さない、学びを止めない教育を進めている。LTEモデルなので、修学旅行や社会けんがくとう こうがいがくしゅう かつよう まいにち けんこうかんさつ ろいろのーと ほごしゃ にゅうりよく しりょう 見学等の校外学習にも活用している。毎日の健康観察は、ロイロノートに保護者が入力したり、資料などもたぶれっとたんまつ つう み ほごしゃ たぶれっと かつよう もタブレット端末を通じて見てもらったりと保護者にもタブレットの活用をしてもらっている。

【課題】

がくしゅう がっこう そうごうてき がくしゅう じかん こ と み たんきゅう じゅぎょうないよう 学習においては、学校は総合的な学習の時間に子どもたちが問いを見つけて探究していく授業内容をじゅうじつ ひつよう こ にち さいてい かい じぶん かんが はつげん はっぴよう きかい つく 充実させる必要がある。また、どの子も1日に最低でも1回は自分の考えを発言・発表する機会を作り、くらす こた ついきゅう ぜんいん さんか しゅくだい かだいとう まちが もんだい かならず クラスで答えを追究していくことに全員が参加する。また、宿題や課題等、間違えた問題については必ずと なお ひつよう 解き直しが必要であり、わからないことをそのままにしないことが重要である。

せいかつ じどうしつもんし きき つか かた かにていがくしゅう いえ ぶん 生活においては、児童質問紙から ICT機器の使い方について、家庭学習については家で「30分よりすく こた じどう かにていがくしゅう い げーお どうが 少ない」と答えた児童が 56.9%もいて、「家庭学習のてびき」が生かされていない。ゲームや SNS動画しちよう つい じかん じかん いじょう とく げーお ぜんこく ぼいんと うわまわ だいいん 視聴に費やす時間は、4時間以上、特にゲームは全国を 15.6ポイントも上回ってしまっているのが第四しょうがっこう こ じったい かにていがくしゅう じかん げーお どうがしちよう じかん き 小学校の子どもの実態であることから、家庭学習にかかる時間とゲームや動画視聴の時間をきちんと決めて守り、自分の目標や夢、将来について主体的に考える教育をしていかなければならないと考える。